

「祝！同窓生が教授就任」

教授就任のご挨拶

人生の扉は他人が開ける！

自治医科大学 耳鼻咽喉科学講座 教授 金澤 丈 治 (6期生)



琉球大学医学部医学科同窓会の皆さま。ご無沙汰しております。6期生の金澤です。今回、自治医科大学耳鼻咽喉科学講座教授を拝命致しました。遅くなりましたが、同窓会の先生方にご挨拶申し上げますと思います。

福島県の田舎町の出身で一番近い小学校から中学校、そして高校に進学。大学くらい遠くにといい最初の進路指導で琉球大学と記載、周囲には驚かれるし成績は劣悪。それもそのはず高校時代は下手なドラム演奏と洋楽に現を抜かしていました。当然、現役入試は失敗で、現状を両親に申し上げると初志貫徹で琉球大を目指すなら浪人も許すが、ダメなら襖職人（実家は襖屋）。流石に、襖職人は大変で、この時だけは猛勉強して見事合格、奥田先生の面接が懐かしい。学生時代は、女性に相手されずとも酒とたばこは頑張りました、弓道も少し頑張りましたという程度。世はバブルで実家も襖屋から建設会社に昇進。二代目になるのも悪くないかということで勉強には身が入らず。優秀な後の小児科医と産婦人科医の力でギリギリ卒業。進路で困るも弓道部顧問の野田教授に呼ばれて何とか耳鼻科に入局、1992年に医師になりました。医局では人工内耳が熱かった時代、術場で形成の先生に呼ばれて形成外科をしました。礼儀知らずで…あの頃の耳鼻科の先生方には感謝しています。頭頸部癌の再建手術に興味が出てきた頃、父が倒れて、会社どうするの？の話、実家に呼ばれて近くの自治医大に移籍するも私が二代目というわけにもいかず姉が継いで、地元では女性経営者の走りになりました。結局、それが良かったみたいで、父は今も元気です。自治医大の勤務は過酷。眠れない当直が月に6回、もう無理と思って闇雲に大学院に逃込み。遺伝子治療の大家の先生に呼ばれたのは幸運だったのか？ 日付が変わるまで実験する毎日。でも、医局員が極端に朝弱いことを知って、1人極端な朝方になると、誰にも叱られることなく快適に、何とか学位貰えました。安心してビールでほろ酔いのところに沖縄から電話、早く帰ってこい呼ばれる。酔いも手伝って快諾。脇のナースが“私、どうなんの？”だったので“結婚しましょう”となりました。沖縄に戻ってすぐ医局長！人の手配の毎日で、離島周遊が仕事になりました。正に、幽霊部員の医局長。教授に呼ばれ

て書類を書いたら文科省在外研究員に当選。ミシガン大学に呼ばれて留学の始まり。娘が生まれたのが最大の収穫。素敵な論文も出来ました。アメリカで行き場を失っていたら自治で分院耳鼻科の立ち上げ、参加しろと呼ばれてさいたま市。今度こそ臨床と思い、懇親会で楽しみに酒飲んでるおじさん先生に呼ばれると頭頸部癌の大家、退職して暇でしょうがない。早速ご指導頂き手術の腕を磨き、船医もやりました。夏は暑くてもさいたま快適。家を購入。その途端、人手不足の自治の本院から呼ばれて、栃木まで片道1時間の新幹線通勤。居酒屋新幹線は大好きです。順調に手術症例重ねて、医局員も倍増、若手も育ってきた頃、芸能人のお産で有名な病院で音声障害やらないか？ 東京の中心地に呼ばれて、数多の有名人の声帯を診察し、芸能人の生活も大変だと思ふ毎日。人口密度にストレスを感じてたら、コロナ禍で患者が激減、外来でお茶を引いてました。三度？ 人手不足の自治医大に呼ばれ、どんなもんかと思っていたら若い医者達から続々メール来て、結局帰ることになりました。帰ってみたら鼻の手術やアレルギーの指導者居ないです。今更のアレルギー勉強開始。自分の専門なんですか？が本音。回診やら会議が増えても相変わらず聞く音楽は一緒に、洋楽聞きながら机に向かってると誰かが呼びに来るような気がして、もう、さすがに誰も来ないと思うものの、少し楽しみです。

卒業からいろいろ有りましたが、毎日楽しく暮らしていれば、次の扉は誰かが開けてくれるように思います。もう、誰かの扉を開ける立場になりました。同窓の先生方のお役に立てる機会があれば本当に嬉しく思います。



後輩への手術指導（中央）。この時が一番楽しいです。